

新垣隆&儀絵里子

おしゃべりコンサート

CDアルバム「ロンド」発売記念コンサート



儀絵里子 *Eriko Iso*
(ヴァイオリン)

新垣隆 *Takashi Niigaki*
(ピアノ・作曲)

プログラム

新垣隆：哀しい鳥

新垣隆：ロンド

サン=サーンス (ハイフェッツ編)：白鳥

ヴィラ=ロボス：黒鳥の歌

サラサーテ：ツイゴイネルワイゼン

新垣隆によるこの日のための即興コーナー

他 ※曲目が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

©ミューズエンターテインメント

2015年12月20日(日) 開場 13:30
はーとぴあ中郷 (上越市中郷区)
全席指定 4,000円(税込) ※未就学児入場不可

9/12(土) 発売開始!
・はーとぴあ中郷 ・YSHOP中郷 ・上越文化会館 ・上越市市民プラザ
・リージョンプラザ上越 ・アコーレ サービスカウンター ・多田金レコード店
・二葉楽器 ・マルケー旅行センター・エルマール店 ・セブンチケット
・エンタメスタイル <http://entame-style.jp>
・ローソンチケット tel 0570-084-003 (Lコード: 71380)

お問い合わせ: BSNイベントダイヤル TEL025-247-0900
上越文化会館 TEL025-522-8800

: BSN 新潟放送・上越文化会館

2015年12月22日(火) 開場 18:30
りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館
(コンサートホール)
全席指定 4,000円(税込) ※未就学児入場不可

※託児サービス、及び難聴者赤外線補聴システムがありますので、りゅーとぴあチケット専用ダイヤルへお問い合わせください。※車椅子席はチケット購入時にお問い合わせください。
9/25(金) 発売開始!
・りゅーとぴあ インフォメーションカウンター ・新潟伊勢丹
・文信堂 CoCoLo 万代 ・セブンチケット ・チケットJCB
・エンタメスタイル <http://entame-style.jp> ・イープラス <http://eplus.jp>
・ローソンチケット tel 0570-084-003 (Lコード: 72822)
・チケットぴあ tel 0570-02-9999 (Pコード: 273-297)

お問い合わせ: BSNイベントダイヤル TEL025-247-0900
りゅーとぴあチケット専用ダイヤル TEL025-224-5521

■主催 BSN 新潟放送・(公財)新潟市芸術文化振興財団

プロフィール

磯絵里子（ヴァイオリン）Iso Eriko

桐朋学園大学卒業後、I・オイストラフ氏に招かれ、文化庁芸術家在外派遣研修員としてブリュッセル王立音楽院に留学。大賞を受賞し首席修了。マリア・カナルス国際コンクールほか国内外の数々のコンクールで入賞。世界各地でのリサイタル、ソリストとしてチェコフィル、ヴェネツィア合奏団など国内外のオーケストラと多数共演し「知性と感性と技術の実力派」と高い評価を得る。愛知万博での草刈民代氏とのコラボレーションは話題を呼んだ。宮崎国際音楽祭へは毎年参加、「題名のない音楽会21」「インシュタインの眼」ほかテレビ・ラジオ出演も多く、現在FMヨコハマ「磯絵里子のSEASIDE CLASSIC」でパーソナリティを務めている。

全国各地での学校訪問コンサート、企業環境TVCの演奏出演をきっかけに社会貢献活動に積極的に寄与。'07デビュー10周年を記念しリサイタルシリーズを開始。第1回「ベルギー・コレクション」は大好評を博し、NHK「クラシック俱楽部」で放映。若手演奏家世代の一翼を担う実力派ヴァイオリニストとしてメインのソロ活動に加え、従妹神谷未穂とのデュオ・プリマやアンサンブルΦ（ファイ）など多彩な演奏活動を展開。真摯な演奏への取り組み、確かな技量に基づいたヨーロッパ仕込みの洗練された感性には定評があり「気負いのないしなやかな活動ぶりが、クラシック音楽シーンで着実に存在感を放っている」など各媒体で高く評されている。

磯絵里子オフィシャル・サイト <http://www.34-net.com/eriko>

新垣隆（ピアノ&作曲）Takashi Niigaki

1970年東京に生まれる。4歳よりピアノを始め、ヤマハ音楽教室や千葉県立幕張高校音楽科などを経て、1989年桐朋学園大学音楽学部作曲科に入学。在学中、若き同志による型破りな音楽に視覚的な要素を加えた演奏会「冬の劇場」に参画。同学科を卒業後、作曲家ピアニストとして多岐にわたり精力的に活動する。ピアニストとしては数々の演奏家たちと同じ舞台に立つ他、サイレント映画の伴奏も数多くこなし、そのエンターテイメント性と共に近代を検証するひとつの方法の提示としても評価され注目を集めている。作曲家としては、昭和期における作曲家達の研究に従事し現代音楽を主体としているが、ジャンルはその枠におさまらない。映画やCM音楽の作曲も手掛けている。教育者としては、2013年度まで母校の非常勤講師を約20年にわたり務める他、アマチュアのためのピアノコンペティションの企画・伴奏や八千代交響楽団の指揮を務めるなど、多くの人々との触れ合いを通じてクラシック音楽をより身近なものとして楽しめるよう尽力している。最近ではテレビ・ラジオ番組に出演し、親しみやすいキャラクターとして今までとは違う一面も見せ輝きを増している。作曲を南聰、中川俊郎、三善晃、ピアノを中岡秀彦、河内純、夢藤哲彦、森安耀子、指揮法を高踏正光の各氏に師事。

新垣隆名義のCDとして、磯絵里子（ヴァイオリン）とのデュオ・アルバム「ロンド」（ソニー・ミュージックダイレクト）及び吉田隆一（バリトン・サックス）とのデュオ・アルバム「N/Y」（APOLLO SOUNDS）がリリースされている。

磯絵里子と新垣隆のデュオ・アルバムによせて 林田直樹

ヴァイオリンとピアノの二重奏とは、こうも中身の濃い室内楽になれるものなのかな。

今回の録音を聴いて、改めてそう思った。華やかなソロ楽器や歌手を前に、ピアニストはしばしば“伴奏”的役割を受け持つ。だが、一見寡黙な執事のように控えている“伴奏”者が、どれほどソリストにとって大きな存在であるか、それはおそらく聴衆の想像をはるかに超える。音楽を生きしも殺しもする、半分の役割は一見地味なピアニストの側に委ねられているものなのだ。

磯絵里子は、日本の音楽界で活躍するヴァイオリニストの中でも、とりわけ、この「室内楽」という意識に敏感な人である。学生時代には弦楽四重奏に青春を燃やした（暗譜の勢いでベートーヴェンやラヴェルやバルトークに取り組んだ）というし、ベルギーへの留学を経て、帰国後CDデビューした際は、いとこで長年の室内楽仲間の神谷未穂と、ヴァイオリン二重奏の「デュオ・プリマ」で鮮やかな印象を残したのは記憶に新しい。演奏家どうし、そして聴衆にとっても親密なコミュニケーションということが、彼女の音楽活動の、根幹にあるような気がする。

ピアニスト・作曲家の新垣隆は、佐村河内守のゴーストライターという形でセンセーショナルな注目を浴びてしまったが、音楽仲間たちからの信頼はもともと厚く、知る人ぞ知る実力者であった。昔ながらの友人で共演歴も多かった磯が、事件の後に久しぶりに再会した新垣に、一緒にまた音楽をやろうよと声をかけたのは、ごく自然なことであったに違いない。

ここに収められているのは、いわばヴァイオリンのためのショーピースとして有名な小品が中心である。こうした肩の凝らない作品こそ、演奏家の真価は試される。一聴して感じるのは、すべてが真剣勝負で、どんな細部もおろそかにされていないということ、そして、人を楽しませるプロ精神と、音楽の質を追求する芸術家気質が、高度に達成されているということだ。一見親しみやすい、なじみ深い楽曲であっても、どこかに常套的でない何かを秘めている演奏といつてもいい。

この新たなデュオが、室内樂的な醍醐味を備えた、純粹に音楽的に魅力あるものとして、多くの人々に愛されることを願ってやまない。



SACDハイブリッド盤

陰の天才から、眞の天才へ! 鬼才 新垣隆が盟友 磯絵里子と紡ぐ16の音の花束 新垣隆&磯絵里子／ロンド～珠玉のヴァイオリン名曲集

1. ロンド（新垣隆）
2. 朝の歌（E.エルガー）
3. 夜の歌（E.エルガー）
4. エストレーダ（M.ポンセ～J.ハイフェッツ編）
5. ゴリウォーグのケーキウォーク（C.ドビュッシー～J.ハイフェッツ編）
6. ひばり（G.ディニク）
7. チャルダーシュ（V.モンティ）
8. 我が母の教え給いし歌（A.ドヴォルザーク～F.クライスター編）

9. ツイゴイネルワイゼン（P.サラサー）
10. 暇想曲（A.グラズノフ）
11. タイスクの瞑想曲（J.マヌエ）
12. 愛の喜び（F.クライスター）
13. 愛の悲しみ（F.クライスター）
14. 白鳥（C.サン=サーンス～J.ハイフェッツ編）
15. 黒鳥の歌（H.ヴィラ=ロボス）
16. 哀しい鳥（新垣隆）

磯絵里子
(ヴァイオリン)
新垣隆
(ピアノ・作曲)

NOW ON SALE